

ギャンブル依存症と共に生きる

A氏(30代男性)

私が、ギャンブルと出会ったのは今から13年前、大学4年生の就職活動中でした。就職活動が思うようにいかず、社会の厳しさから逃げ出したいとの一心で始めたことがきっかけです。初めてパチンコ店に足を踏み入れると、私は俗に言うビギナーズラックというものにはなりません。しかし負けてもこれが勝てばお金になる！という気持ち。そして何より、パチンコやスロットのゲーム性や機械から放たれる光や音の迫力にどんどん魅了され、パチンコ店が一番落ち着く場所になり、苦しい思いをして働くくらいなら、ギャンブルでお金を稼げばいいと気付けば頻りにパチンコ店を出入りするようになっていました。そこからというもの、最初は自分が持っているお金の範囲内で遊んでいますが、最終的には働いた給料を全てギャンブルに使い果たすと、消費者金融でお金を借り、時には親に嘘をついてお金をもらう。など、ギャンブルに使うための軍資金を得るためなら手段を選ばない自分になっていました。自分の行動を悟られないために多種多様な嘘をつき何よりもギャンブルを優先してきました。そして、私は今まで計3回消費者金融に借金をし、そのうち、2回は両親に肩代わりしてもらったことで大変な迷惑をかけ、3度目の借金は自己破産という形をとりました。また友人からお金を借りたこともありました。結婚生活も送りましたが嫁の管理していた通帳や貯金からお金を抜き取り、借金があることも分かり破綻。極めつけは正社員として働いていた職場のお金を横領し会社をクビ。まるで人間のする行動ではないと驚くかもしれません。

そんな私に両親は病院を勧め、平成29年12月に太田病院を受診。もちろんギャンブル依存症と診断され、そこで初めて自分は病気なのだと知らされました。しかし、ここからが本当の戦いでした。病院に通院しているからギャンブルが止まるわけではありません。私は、1年数ヶ月、先生や心理士さんにギャンブルはしていない、GAにも参加しているなどと嘘をついてギャンブルを続けていました。その事実が今年の3月に両親にバレたことで、病院に全てを正直に報告。自分も心から病気の事を全て認め、今は2週に1回の通院と病院で開催されるGAに参加し、不思議にも7ヶ月ギャンブルは止まっています。金銭管理も両親に任せるなど、もちろん生活の工夫やある程度の制限は必要です。周りのサポートはもちろん、しかし何よりGAで同じ苦しみを持つ仲間がいることほど心強いものではありません。

自分はギャンブル依存症という病気だと心から認めることが全ての始まりで、そしてこの病気と共に生き、辛い日々が続こうともいつか必ず乗り越えてみせる！と今は思えます。こんな自分でも少しの希望と明るい未来をと、諦めずに回復の道を歩いていきたいと思えます。